

研究会員の皆様へ

この度、事務局では柔構造物工法を中心とした様々な情報を皆様に発信することで研究会活動の活性に繋げられるよう、手作りの会員だよりを発刊することといたしました。

タイトルは、研究会全体がリングネットのように強いつながりを持ち災害に打ち勝っていただけるよう“Ring Network”と名づけました。是非、ご一読いただきご意見等をいただけましたら幸いです。(事務局)

【順天堂大学病院ⅠB】

ヘリポートを併設する重要度の高い病院を、背後にある急斜面の崩壊から防護するためにインパクトバリアが設置されました。病院・市・県の協力の下で順次発注が行われ、病院の利用者に対し、騒音・振動を配慮した施工を心掛けられたそうです。(写真下↓)



連源寺裏手のIB

伊豆、アイビック様の施工現場へ
既設の現場へお邪魔し、施工するにあたり
お邪魔しました
工夫された点やご苦労話をお伺いしてきました



大学病院を裏手から守っています



景観に溶け込む連源寺IB

↳ 資材搬入に使用できる用地が限定されていた為、法面上の置き場までクレーンを据えての搬入になったそうです。(↑写真上・右)

アイビック様では、柔構造物工法の利点を独自に整理し説明できる資料を作成されていました。特に自然への適合面で、近隣住民の皆さまの立場に立っておられるのが印象的でした。(5)



民家も守ります

【連源寺ⅠB】
由緒あるお寺や神社、自然公園や遊歩道などを斜面崩壊から防護する目的で設置、かつ景観との調和を求められる現場でした。



令和2年度 行事予定

本年度の定例総会は新型コロナウイルスの感染対策として、書面にて会員様全員のご決議をいただきましたことに御礼申し上げます。

＜令和2年度のメイン事業の紹介＞

1. 地域講習会・現地見学会の実施
2. ホームページの刷新
3. 施工実績のデータ処理改良
4. 普及活動強化 合同講習会開催等

10/6 (火) 砂防会館にて
「鋼構造物・柔構造物合同講習会」
万全なコロナ対策を講じて開催されました



国土交通省 砂防部長のご挨拶



本年度ホームページをリニューアルします

アンケートのご協力と写真提供のお願い

- ①会員様の専用ページ いる いない
- ②スマホ対応ページ いる いない
- ③電子カタログページ いる いない
- ④写真提供のお願い
HPに掲載する現場の写真を収集しています
工事写真・落石を捕捉した写真等、送付いただけたら幸いです
- ⑤その他ご意見 いる いない
どんなご意見でもOKです

ご回答は、HP問合せフォーム、
または、support@japan-ring.net
まで お待ちしております (事務局)

募集中です！

施工現場を取材させていただける
会員様を募集しております。
ご連絡は事務局まで お待ちしております

新型コロナウイルスの感染がまだ収束しない中で、日頃の研究会活動へのご協力に感謝申し上げます。事務局では一部テレワークにより交代勤務を取り入れておりますが、電話・メール等による問い合わせには、これまで以上に迅速かつ適切な対応ができるよう体制づくりを行っていますので、よろしくお願いします。(事務局)

コロナ時代を生き抜く。

——田畑会長にお話をお伺いしました

「コロナ時代と呼ばれて久しいですが、今なにを大事にされていますか。風聞に惑わされず生きる事が大事だろう。」

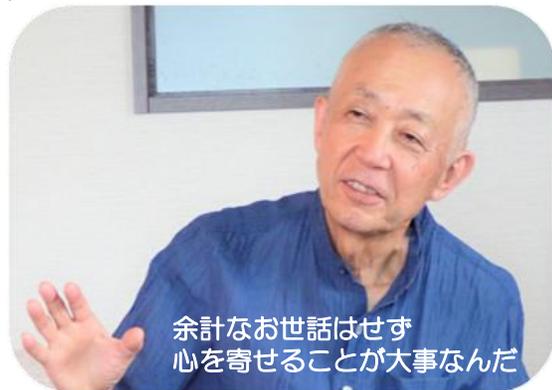
「SNSでも家の近所の噂話でも同じことで、あることないこと言う人がいるがそれに惑わされてはいけません。噂話で会社も家庭もおかしくなるし、真に受けてたらストレスも溜まる。」

「コロナを客観的に捉え、本質を見極める事が大事だろう。東京から来た人には近寄りたくない方がいい、と噂をする人がいたが、私は憤慨したね。偏見・差別は、混乱を招く。社会も付和雷同は最悪、最低だ、と私は信じている。」

「大事なのは心を寄せることだ。会員への声掛け、安否確認するのは当然だ。だが、それ以上の余計なお世話はいらない。そして困っているときは手を差し伸べる。具体的には、落ち込んで行ったりする若い人たちがいたら飲みに来て行ったりするんだよ。図面を赤ペンで直してやったこともある。そして元氣になつて帰っていくんだ。」



会員さんは家族なんだよ。だからつい本気で怒ることもある(笑)



余計なお世話はせず心を寄せることが大事なんだ

「会員様へ一言
ただけですか？
なぜそんなに厳しい叱責があるのか、と聞きたいんじゃない？」(苦笑)
私は常々こう思っている。例えば親なら、ちやほやする親もいるだろうが、いい子に育てたいと思えば厳しくもなるだろう。それと同じで、会員さんにはいい仕事をして欲しい。子と思う親のように、つい本気で怒ってしまうこともあるが、それは期待しているからなんだ。だって家族だからね。
「貴重なお話をお聞かせいただきありがとうございます。次回に続きます。」(3)

3つのモットー

- ・剛より柔へ
- ・目的強度に応じて
- ・真のものを

<柔構造土工法に関連する基準類での記述紹介>

1. 国土交通省砂防部ホームページ

強靱ワイヤーネットを「砂防堰堤の分類」に仮設として記載。

2. 新・斜面崩壊防止工事の設計と実例 —急傾斜地崩壊防止工事技術指針— (全国治水砂防協会 R元.5)

参考編にインパクトバリアの設計施工事例を紹介

3. 土石流対策の手引き (中日本高速道路株) H29.7)

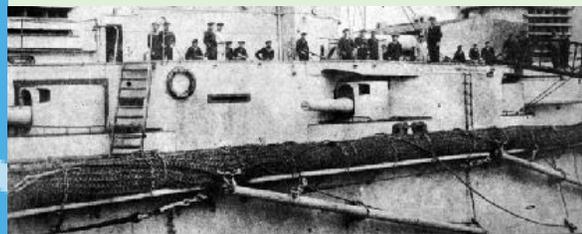
インパクトバリア工法を適用工法として紹介、強靱ワイヤーネット・ワイヤネット工法を設置事例として紹介

4. 治山林道必携(日本治山治水協会)

リングネット落石防護柵の技術と積算方法を記載

リングネットの原点

私たちが落石防護柵のパネルに普段使うリングネット、この不思議なワイヤローブをリング状に組付けた素材、これを最初に考えた者は誰なんだ？またその目的は？というのが今回の話題の中心。よく市場で古くは防潜網だったとさらっと語られるが、だから何？という部分のコメントがどこにも書かれていない。いまではインターネットという情報検索ツールがあるから、読者といっしょに原点を探してみよう。防潜網、これを文字に表示すると「Anti-torpede net」 著者では、ヒルラッセル ©Phil Russellという軍事史文筆家がネットで目に留まる。



記事に採録されている防潜網リングネット

ラッセル氏の原稿ほぼ中央に図面があり、このような防護装備が必要になった理由にも触れている。巨大な鉄の船に大砲をつみ、海洋の覇権を制する国がどこかあらわれると、この戦艦を攻撃する水雷(魚雷の元)を作る国があらわれる。

水雷艇は魚雷の原点、自動走航する小舟の先端に爆薬を付け、戦艦の側壁に激突させ沈めるといふ攻撃の装備。なんと、この水雷の攻撃をくいとして、船から離れた膜のところで爆破くいとするための物が防潜網なのだ。 つづく

Ring Network 創刊号 お読みいただきありがとうございます

コロナ禍の中、時短勤務や在宅ワークを導入された会員様もいらっしゃったかと思います。限られた行事の中、皆様にお会いする機会も少なくなりましたが、この紙面にて研究会を身近に感じていただき、研究会から、また会員の皆さまからの情報提供の場としても活用していけたらと願いをこめ作成いたしました。つたない部分もありますが、少しでも楽しんで頂けましたなら幸いです。

最後に、お忙しい中お時間いただき現場取材にご協力いただきましたアイビック様に心より感謝申し上げます。(5)



アイビック様
井出様 石坂様
撮影当時は炎天下の空の下、親切にご対応いただきました